

## News Release

# わたしたちはあらためて ダイバーシティ&インクルージョンの重要性を訴えます

わたしたち 30% Club Japan (Chair.資生堂 代表取締役 社長 魚谷雅彦)は、企業のトップ層や取締役会をはじめとした重要意思決定機関に占める女性割合の向上を目指し、「2030年までに役員に占める女性比率を30%以上にする」との目標達成に向けて精力的に取り組んできています。30% Club Japan は、2021年実施予定の「東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」が掲げる「多様性と調和」の重要性をあらためて訴えます。

組織におけるダイバーシティ&インクルージョンは、様々なバックグラウンドをもった人材が多角的な視点で意見を活発にかわすことにより、創造的なアイデアを導き、イノベーションを促進することに貢献します。意思決定の場面でメンバーに偏りがある場合、視点が一方的になり、「グループシンク(集団浅慮)\*」に陥りやすいことが指摘されています。したがって、自由闊達な議論が促進され、その透明性が保たれるよう組織のガバナンスを強化することが重要です。

新型コロナウイルスとの闘いは長期化する可能性があり、従来の発想ではこの危機を乗り越えることはできません。多角的な視点で複数のアイデアを持ち寄り、回復と成長の道筋を探らなくてはなりません。「東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」の実現も、企業経営も、コロナ禍の時代においてはすべての局面においてダイバーシティ&インクルージョンの推進がますます重要になっており、女性を含んだダイバーシティの力や視点が今まで以上に必要と考えます。

30% Club Japan は、すべての人に平等に機会が与えられることはもちろん、すべての人が自分の意思に基づき、個性と能力を発揮できる社会の実現を目指しています。意思決定機関における健全なジェンダーバランスは、多様な個性と能力の発揮を促進し、組織の持続的成長、持続可能な日本社会を築くと信じています。30% Club Japan は、いまだ社会に根深く存在する偏った見方を払拭しながらダイバーシティ&インクルージョンを実現することに強くコミットしており、今後も積極的に活動を行っていきます。

\*自分の集団の実力に対する過大評価、外部リスクの過小評価、構成員に対する無言の圧力などによって起こる不合理な意思決定パターン